

高崎芸術劇場フォーラム Vol.1

# ぼくは ディック・リー

進化と継承

ディック・リーが教えてくれた私たちの生きかた

2019.12.8.sun 14:00開演  
(13:30受付)

高崎芸術劇場 スタジオシアター

●参加費／無料(オープニングアクト、フォーラムそれぞれ先着250名・全席自由)

●申し込み方法／電話にて事前申込。

TEL 027-321-3900

高崎芸術劇場チケットセンター(10:00~18:00)



ディック・リー Dick Lee

10代でバント活動を開始すると共に、服飾デザインにも興味を持つ。17歳でシンガポール初のファッションショーを開催し注目を浴びた。また同年「ライフ・ストーリー」でアルバムデビューを果たす。その後イギリスに留学し本格的に服飾デザイナーとしても活躍しながら、音楽活動も精力的に続ける。欧米の音楽やファッションに触れる中で、独自の音楽スタイルを確立していった。アジアンポップスを象徴する歌手であり、作曲家、プロデューサーとしても多くのプロジェクトを成功に導いている。また、多くの日本人アーティストにも影響を与え続けている。

オープニングアクト 14:00~15:40 定員250名

## ●映画上映『Wonder Boy』

ディック・リー監督/ダニエル・ヤム監督作品

アジアンポップス界のスター、ディック・リーが手がけた、自伝的青春映画。音楽の大好きな少年が多感な思春期を経て、建国間もないシンガポールの音楽シーンにどのように登場してきたのか。自らのエピソードと楽曲を盛り込みながら、シンガポールに生きる若者たちのかけがえのない時間を切り取った力作。



『Wonder Boy』シンガポール 2017年 96分  
監督:ディック・リー/ダニエル・ヤム 出演:ベンジャミン・コー

## 高崎芸術劇場フォーラムとは

都市は、人生の喜怒哀楽や出会いが繰り返される舞台であり、都市そのものが劇場です。都市は文化、芸術を創造し劇場や音楽ホールをつくります。そして劇場や音楽ホールで公演される音楽や舞台芸術は、人々に感動と共感、そして新たな価値観を呼び起こします。このことが都市の創造性を生み出していきます。

高崎芸術劇場は、「都市は劇場であり、劇場は都市である」と考えています。高崎芸術劇場フォーラムは、「都市の時代」における都市と劇場のあり方や、文化、芸術と都市や市民の生きかたについて、さまざまな視点から考え、学んでいく場として開催します。

フォーラム 16:00~18:00 定員250名

## ●トークセッション

テーマ アジアンポップスのスーパーstar、ディック・リーの音楽と生きかたを通して、グローバルな都市文化の創造や進化と継承について、今、再び見つめなおす

登壇ゲスト ディック・リー、佐藤 良明、篠崎 弘、橘 豊



佐藤 良明 さとう よしあき

東京大学名誉教授。専門はアメリカ文学、ポピュラー音楽文化論、メディア文化論。著書に『ラバーソウルの弾みかた—ビートルズと60年代文化のゆくえ』(平凡社ライブラリー)、『J-POP進化論』(平凡社新書)、『これが東大の授業ですか。』(研究社)など。訳書にジョン・レノン『らりるれレノン』(筑摩書房)、トマス・ピンチン『ヴァインランド』(新潮社)、グレゴリー・ペイトン『精神の生態学』『精神と自然』(以上、新思案社)ほか。NHK教育テレビ「ジュークボックス英会話」、「リトルチャロ」講師も務めた。高崎市在住。



篠崎 弘 しのざき ひろし

元朝日新聞記者。芸芸部で長くポピュラー音楽を担当。アーティストの先進性を見出すジャーナリストとして名高い。シンガポールで活動するディック・リーを日本に紹介し、日本の音楽シーンに大きな影響を与える。また、日本の芸能にも造詣が深い。著書に『ぼくはマッド・チャイナマンディック・リーが奏でるシンガポールの明日』(岩波ブックレット)、『洋楽マン列伝』(ミュージックマガジンの本)、『カセット・ショップへ行けばアジアが見えてくる』(朝日新聞社)などがある。



橘 豊 たちばな ゆたか

8歳から19歳までを香港・シンガポールで過ごす。早稲田大学第一文学部卒業。卒業後、株式会社アミューズにてタレントマネジメントを学ぶ。2006年、株式会社ワイルドオレンジアーティストを設立。日本人俳優、音楽家の海外窓口として活躍する。さらに、海外との合作映画のプロデュースも手掛ける。2017年、シンガポールのエリック・クー監督作品『家族のレシピ』のプロデューサーとして高崎でロケを行った。著書に『絶品!シンガポールごはん』。